

横浜市小学校国語研究部会の活動について

1 研究主題

言葉による見方・考え方を働かせ、確かな資質・能力を身に付ける国語科学習の創造

2 研究主題について

『小学校学習指導要領解説』（平成29年）総説において、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善に向けた授業改善を進める際に留意して取り組むことの一つとして次のように述べられている。

「深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になること。各教科等の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等との学習と社会をつなぐものであることから、児童生徒が学習や人生において「見方・考え方を自在に働かせることができるようにすることにこそ、教師の専門性が発揮されることが求められること。」

このように、見方・考え方は学びの深まりの鍵となり、見方・考え方を働かせながら資質・能力を身に付ける学習過程を充実させることが求められる。さらに、見方・考え方は学びの本質的な意義の中核をなし、学習と社会をつなぐものとされている。

国語科の目標の冒頭において「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」とあるように、国語科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方として「言葉による見方・考え方」を示している。

『小学校学習指導要領解説 国語編』の中で、「言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。」とし、「「言葉による見方・考え方」を働かせることが、国語科において育成を目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながる」と述べている。

このように、言葉による見方・考え方を働かせることは言葉への自覚を高めることであり、資質・能力をよりよく身に付けることにつながるとされ、言葉による見方・考え方を働かせることを生かして学習指導を創意工夫していくことが求められている。

本市では『横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領 国語編』（平成30年）において、次のように言葉による見方・考え方を働かせる例を挙げている。

言葉による見方・考え方を働かせている例

- ・言葉の意味を知り、状況に応じて使い分けて関連付けている。
- ・文章の書き方や使う言葉を吟味している。
- ・相手意識をもって話す言葉を選んでいる。
- ・分かりやすい語句に書き換えるなど言葉を取捨選択している。
- ・自分の意見をもつために、根拠を明確にして考えを書いている。
- ・他者との交流や相互評価を通して新たな自分の考えに気付いている。

本研究会では、昨年度まで「確かな言語能力を子どもが主体的に身に付ける国語科学習の創造」を研究主題とし、副主題に「主体的・対話的で、深い学びの実現に向けて」を加え、子どもの学びの過程の質を向上させ、主体的に確かな言語能力を身に付ける国語科学習の創造を目指してきた。

今年度は、研究主題「言葉による見方・考え方を働かせ、確かな資質・能力を身に付ける国語科学習の創造」を設定し、本研究会で重視してきた確かな力の追究を継承し、「確かな言語能力」から「確かな資質・能力」を身に付けることを視点とする。「確かな資質・能力」とは、国語科において育成を目指す「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」につながる資質・能力ととらえる。研究主題に示す「国語科学習の創造」へ向かい、言葉による見方・考え方を働かせ、確かな資質・能力を身に付ける子どもの姿を具現化する実践を重ねて発信していく。

3 研究内容

言葉による見方・考え方を働かせ、確かな資質・能力を身に付ける国語科学習の創造
～ 深い学びに到達する「見方・考え方」を踏まえた単元づくりの在り方 ～

前述のように、新学習指導要領においては、言葉による見方・考え方を働かせることによって資質・能力をよりよく身に付けることにつながることを、また、言葉による見方・考え方を働かせる姿が表れるように学習指導を創意工夫していく必要があることが示されている。したがって、本研究会においても「言葉による見方・考え方を働かせ、確かな資質・能力を身に付ける子どもの姿」の具現化を目指す実践を重ねていく中で、どのような単元づくりや学習過程の工夫、手立ての工夫等によって、その姿が見られるようになるのかを明らかにしていくことを目指し、深い学びに到達する単元づくりの在り方を検証する。

そこで、言葉による見方・考え方を働かせる姿を具現化するための研究の視点を以下に示す。その中で①④⑤の視点については、研究推進部・授業改善部共通で深めていく。②③⑥の視点については、研究推進部は「言葉による見方・考え方を働かせている姿」の「整理・系統化」を中心に、授業改善部は「姿の見取り・蓄積・有効だった手立ての分析」を中心に進めていく。

視点① 単元計画の工夫

課題解決的な過程を踏まえ、相手意識・目的意識をもった言語活動の中で、どのように言葉による見方・考え方を働かせる姿が生まれていくかを見取り、系統立てて整理する。

視点② 「話す・聞く」「書く」「読む」それぞれの領域における、言葉による見方・考え方を働かせている姿の具体と系統化

言葉による見方・考え方を働かせている姿を領域ごとに整理し、共通点や相違点に着目して系統を見出す。研究推進部→領域ごとの整理・系統化

授業改善部→言葉による見方・考え方を働かせる姿の見取り・蓄積・有効だった手立ての分析

視点③ 導入部、展開部、終末部それぞれにおける、見方・考え方を働かせる姿の具体と系統化

展開部については、領域や学習過程によって様々なパターンの見方・考え方を働かせている姿が表れる。導入部、終末部などは授業のねらい自体に共通性があると考え、具体と系統化を検討する。研究推進部→学習過程ごとの整理・系統化

授業改善部→言葉による見方・考え方を働かせる姿の見取り・蓄積・有効だった手立ての分析

視点④ 児童が見方・考え方を働かせている姿をメタ認知するための手立て

児童と教師が授業のめあてを共有することが、育成を目指す資質・能力を身に付けるために効果を発揮すると考え、児童自身が見方・考え方を働かせる姿をメタ認知し、振り返ることができるような手立てをとることで、授業の質の向上を図る。

視点⑤ 学習評価との関連性

子どもたちがどう学んだかを評価しようとするとき、特に思考・判断・表現力について評価するときには、子どもが何について、どのように思考して、どう表現したかを見取る必要がある。同時にどのように言葉による見方・考え方を働かせたことにより、資質・能力が身に付いたのか、あるいは身に付くまでには至らなかったのかを見取り授業改善に生かす。

視点⑥ 年間指導計画の工夫

学年に応じて目指すべき資質・能力を螺旋的・反復的に身に付けていくことを考え、見方・考え方を働かせている姿の初歩的な姿とより高次な姿を考える。より高次な姿に至るには、どのような姿を経る必要があるのか明らかにする。

研究推進部→初歩的な姿と高次な姿の整理・系統化

授業改善部→蓄積された授業実践・具体の姿を基にした有効な手立ての分析

以上の検討事項について、研究推進部と授業改善部が連携を図り、系統立てて整理して授業改善を行うとともに、研修事業部と情報共有をしながら、研究主題にあたる国語科学習を創造する。

4 年間活動（事業）報告

月	内 容	会 場
4月	役員・部長会 紙面総会	芹が谷南小
5月	講演会「新学習指導要領を踏まえた学習指導と学習評価」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 大塚健太郎先生	オンライン開催
6月	授業改善部提案「夏休み前の読書単元をつくろう」 校長先生によるミニ講座①	オンライン開催
7月	授業改善部・研究推進部合同研究会 「言葉による見方・考え方を働かせ、確かな資質・能力を身に付ける国語科学習による創造（理論と実践）」 授業力アップセミナー①	オンライン開催
9月	講演会「国語科における ICT の活用例」 横浜市教育委員会 西部学校教育事務所 主任指導主事 板垣 久美先生 第1回幹事会	オンライン開催
10月	授業改善部実践提案「国語科の授業におけるロイロノート活用のアイデア」 校長先生によるミニ講座② 授業力アップセミナー②	オンライン開催
11月	12月市一斉授業研究会 指導案検討 授業力アップセミナー③	オンライン開催
12月	市一斉授業研究会（5部会） 文集「よこはま」68号発行	集合・オンライン開催
1月	授業改善部による実践提案 校長先生によるミニ講座③ 授業力アップセミナー④	オンライン開催
2月	総会 第二次研究大会 研究発表 第2回幹事会	オンライン開催
3月	役員・部長会 研究集録「いきいきはまの国語」発行	オンライン開催

(1) 市小学校書写展（1月19日～23日）

感染要予防対策をしながら、5日間の会期で入場数が昨年度の倍の約3,600人あった。

(2) 授業力アップセミナー

初任者および経験年数が短い教員を中心に、多くの教員が主体的に学び、国語科指導の基礎・基本を身に付けられるよう、指導主事と現任教員による講義や演習を計4回行った。

(3) 文集よこはま

2,400点を超える作品の応募の中から、文集よこはま68号を発行した。今年度も、6学年の作品をまとめ1冊の構成とした。

(4) 広報活動

「はまの国語」「いきいきはまの国語」の冊子、ホームページで各部の活動について紹介した。

(5) 講演会

5月「新学習指導要領を踏まえた学習指導と学習評価」

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官

国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教科調査官 大塚 健太郎 先生

9月「国語科における ICT の活用例」 西部学校教育事務所 主任指導主事 板垣 久美 先生

(6) 第2次教育研究大会

オンラインによる研究推進部、授業改善部の提案を行った。研究推進部「深い学びに到達する「見方・考え方」を踏まえた単元づくりの在り方」授業改善部「子どもが自らが「問い」を見出し、言葉による見方・考え方を働かせながら解決していく授業の在り方」情報活用部「GIGAスクールプロジェクト」を踏まえた国語科における ICT 活用」と三部で提案を行った。

5 研究の成果と課題

コロナ禍において、ZOOM、クラスルーム、共有ドライブなどを使いながらの講演会をはじめ、実践提案、研究大会、一斉授業研究会を行うことができた。研究推進部、授業改善部、研修事業部が連携した提案や ICT を活用した提案が行われ、研究主題に迫ることができた。感染状況により、オンラインだけではなく、集合開催やハイブリッド開催を行うことで、さらに研究を深め、情報共有を行いながら、研究をすすめていきたい。